

平成26年度 第3回生物多様性推進部会 会議録（要旨）

【開催日時】 平成27年1月19日（月） 午後2時～午後4時

【開催場所】 西宮市職員会館 大会議室

【出席者】 <事業者> 西宮商工会議所 常務理事 野島 比佐夫 氏
<専門家> 兵庫県立大学 教授 服部 保 氏
神戸女学院大学 教授 遠藤 知二 氏
西宮自然保護協会 会長 三宅 隆三 氏
<事務局> 産業環境局長 他9名

【主な内容】

<報告事項>

1. 「甲山グリーンエリア地域連携保全活動計画」の進捗状況について
2. 北山などにおける自然環境調査の結果について
3. その他（広田山公園・西宮生きもの写真情報館）

<検討事項>

1. 生物多様性関連活動状況について
2. 自然調査の今後の展開等について

■ 報告事項

1. 「甲山グリーンエリア地域連携保全活動計画」の進捗状況について（事務局説明）

《質疑応答》

- ・ボランティアセミナーで育てられた方々の活動場所はどこになるのか？（委員）
→今のところ、甲山グリーンエリアである、甲山自然環境センター周辺、神呪寺の農地周辺、阪急仁川の植物園跡地など。他に、社家郷山でコープこうべが「コープの森」にて森林整備をしているのでスタッフとして整備に入れるようになる。今回の都市型里山ボランティアセミナーは、甲山自然環境センターとコープこうべの共催で進めさせていただいている。（事務局）
- ・今後の活動予定場所とは別地域で団体を作って、活動することはできないのか？（委員）
→今回のセミナーが念頭に置いているのは社家郷山と甲山で循環利用ができる都市型里山の仕組みを作るために、実際に整備に入っただけのスタッフであり、他の地域で活動する団体を新たに作っているというニュアンスではない。（事務局）
- ・セミナー修了生が社家郷山で活動をしようと思った場合、今ある団体の中に入らなければならないのか？社家郷山で活動する新たな団体を立ち上げることはできないのか？（委員）
→そこまでの縛りは特に設けていない。修了生が自主的に作ろうということであれば良いのかなと思う。（事務局）

→有馬富士公園の場合では、ボランティア団体が複数ある。里山関係でもいくつかのグループがあり、それぞれのグループが独自に活動しているが、調整会議を設けて勝手に活動しないようにしている。なぜこの話をしたかという、既存の団体に入っていくというのは難しいため、それなら新しい団体を作った方が早いのではないかと思ったからである。(委員)

→今のところは、修了生が独自にそれぞれいくつもの団体を作るという事は念頭にはない。セミナーを受講していただいているので整備方針などをご理解いただいているというのが前提にあるが、色んな団体が乱立するとそれぞれが好き勝手なことをしてしまう恐れがあるので、団体の乱立というのは想定していない。(事務局)

→乱立は問題だが、乱立しないように運営していくというのが大事である。既存の団体に入っていくのは難しい。以前、甲山にも団体があったが、揉めて解散したという経緯があるので、どういう団体の作り方をするのか？ということである。全員この組織に入れとって、皆が入ってくれば良いのだが、独立性などを主張するグループも多くなかなかそうはいかないので、どのようにするのかまた検討していただきたい。(委員)

- ・今年だけでなく、来年度もこのセミナーは続けて行く予定か？(委員)

→引き続き続けていく予定。今年、プログラムの日程と自身の予定が合わず、規定の回数を受講できなかったために修了証を貰えなかった方もおり、救済措置とってはなんだが、そういった方には来年度に不足分の講座を受講していただければ修了証を渡す予定である。(事務局)

→そうすると来年度に修了された方が増えてきて、先ほどの話のような問題が将来的に生じてくるのかなと思う。緩やかにグループができるという感じであれば動きやすいのかなと思う。(委員)

- ・セミナー参加者の年齢層はどんなものか？また、普段は何をされている方が多いのか？(委員)

→多いのは、仕事をいったんリタイヤされた方が中心になっている。仕事を持っておられる40代の方も居るが、60歳以上の方が中心である。(事務局)

- ・阪神北県民局では、北摂里山博物館のコースの中でセミナーをずっとやっていて今年で3年目になる。そこで20から30人の卒業生が出てくるが、北摂地域には多くの市民グループがあり、それらのグループに入ってくださいと、グループの長の方を呼んで、アピールしてもらおうのだが、既存の組織に入るのが嫌だといってなかなか入らない。どちらかという卒業生が新しいグループを作るという方が多いので先ほどの話をした。たくさんの人を養成しても上手に活用するのが難しい。(委員)

→甲山グリーンエリアの地域連携活動保全計画というのを策定したので、甲山自然環境センターの指定管理者が今行っているのは、きちっとしたボランティア講座を受けてから、この計画を説明してしっかり理解した上で資源循環型の森林保全をし

ていこうというものである。2、3年はかかると思うが、指定管理者のレクを受けた上でまとまって活動する方向で考えている。(事務局)

2. 北山などにおける自然環境調査の結果について (事務局説明)

《質疑応答》

- ・資料P16にある今後の課題への対応はどのように考えているか？(委員)
→まず、過去に調査した植生調査資料の整理については、職員だけで分析しきれないので、今後他の資料なども出揃ってきたら、分析業務として専門家の方に委託するなど相談しながら資料の整理を進めていきたいと思う。外来生物への対応については検討中で、希少種の保全についてもまだ市の内部でも方針は定まっていない現状である。資料が部会に間に合ったのでひとまずご報告させていただいた次第である。今後の対応につき意見をいただければ幸いである。(事務局)
- ・今回の調査対象の中に、西宮市の所有の土地はあるのか？
→一部を除き、他大部分は林野庁の国有林になる。(事務局)
→もし西宮市の土地があるのであれば、ここは元々あったブナ・イヌブナ林に戻した方が良いということで、せっかく調査をしているのだから、当面ブナは見つかっていないのでイヌブナ林の再生を目標にするのも良いのではないか。(委員)
- ・六甲山は神戸市区域でミズナラはあまり見たことはないので、ここはミズナラが多いみたいで珍しいと思った。ツツジの仲間がたくさん出てきているので、増殖して復元するとかを考えても良いと思う。伊丹も宝塚もブナ帯を持っていない。ブナ帯をもっている所は、神戸、西宮市ぐらいで、ブナ帯の生物多様性をどうするかというのを展開できるので、市の所有地があるのであればブナ帯の生物多様性を扱っても面白いと思う。(委員)
- ・今回の調査場所は社家郷山の上部とつながっているのか？社家郷山を登っていくと海拔750mを越えないのか？社家郷山区域の中で海拔は最高でいくらか？(委員)
→社家郷山で海拔750mを越えているところはないが、すぐ隣というか、裏側でつながっていると言えればつながっている。(事務局)
- ・社家郷山にブナ帯に生息するエゾゼミがいるとの事なので、その生息場所も750mを越えているのかと思った。今回調査した地域にエゾゼミもいるのか？(委員)
→今回の調査は、植物層の調査なのでそこまではわからない。社家郷山でエゾゼミが見つかったというのはどのあたりか。(事務局)
→樫ヶ峰に行く手前のイノシシ池と呼ばれるところ辺りである。標高400mぐらいだったと思う。(委員)
→日本海側にはけっこういるが、瀬戸内側でエゾゼミがいるというのは六甲山と高野山の猪名川のところぐらいしかない。(委員)
→このエリアで動物・昆虫などの調査をする際は気に掛けておく。(事務局)

- ・林自体はミズナラ林みたいになっているのか？（委員）
 - そうである。（事務局）
 - 今までミズナラ林の報告というのは、六甲山でなかったと思うからそれ自体でおもしろいと思う。高木層には何が入っているかなどのミズナラ林の調査票・組成表はとっているのか？（委員）
 - とっている。（事務局）
 - 非常に興味深いところなので、引き続けての調査とイヌブナ林・ミズナラ林の復元みたいなことを考えても面白いと思う。（委員）

3. その他（広田山公園・生き物写真情報館）（事務局説明）

《質疑応答》

- ・ホームページのアクセス数はどれくらいか？（委員）
 - 140,000件ほどである。（事務局）
 - 月ごとのアクセス数はどうか？（委員）
 - とっていない。140,000件は、25年の8月25日からの総数である。細かいデータは今後取っていく予定である。（事務局）
 - 良いホームページだと思う、小学校などにPRすればアクセス数が増えると思うので考えて欲しい。（委員）
- ・提供する写真について、西宮市で確実に生息が確認できるが、市外で撮れた写真の方が写りの良い場合があるのでそれでも良いのか？それとも良し悪しに関わらず、西宮で撮れた写真でないといけないのか？（委員）
 - 西宮生きもの写真情報館としているので、西宮市で撮れた写真だけを掲載している。（事務局）
 - 細かいことになるが、提供写真について、標本写真ではだめなのか？例えば、昆虫であれば標本箱の中に入っている一つを取り出して、これは貴重な種だから写真を提供したいというような、動かない物の写真はダメなのか？（委員）
 - 今の時点では、原則、生きている生きものに限定している。（事務局）
- ・今後、特定できない種類というのが増えてくると思う。特定可能種と不能種に分けるという話だが、特定不能種は具体的にはどのような表現で公開するのか？（委員）
 - 何々の種というかたちで、和名が無い分は学名を一つの名前として何々の一種と言うかたちで掲載する。（事務局）
 - 今の話だと、特定不能種では、戦略策定時に確認された3,637種以外ということになるのか？（委員）
 - 今、現在でも3,637種の中に特定不能種は存在し、和名のついていない何々の一種というものが存在する。（事務局）
 - 厳密に言うと、その何々の一種というのは、その後見つかったものみたいな扱いを

するのか？この扱いは難しいと思う。(委員)

→専門的な分野になってくるので、色々な専門家にお伺いをし、きちんと確認したものを掲載するようにする。安易なかたちで掲載しないようにする。(事務局)

- ・特定不能種はリストから省いてしまえば良い。結局、同定できていないのだから、それを入れていないと、別々にカウントしていたのが1種類になるかもしれないし。きちんと同定できたものだけをリストに入れて、特定不能種は放っておく。例えば、イタチシダの1種を採取すると、生きていないことになってしまうので、標本にしたとしても死んだものになってしまう。個人的には標本でも良いのではないかと思う。そこに確実にいたというデータであれば。昆虫の場合は特にそうで、写真で同定しろといわれても難しいと思う。採取して標本にしないと同定できないということになる。生き物というのは、生きている物ではなくて、生物だというような感じがする。(委員)

- ・写真に撮ったものを標本にしてきちんと特定し保管するというシステムが一番良いのだが、現実的にそこまで要求するのはやはり難しいか？(委員)

→富山市の方では、博物館が運営しているので、生き物調査をしたら現物を博物館に持ってきてもらって確認してから情報を入力するという段取りをとっている。そのような事例はあるが、現在は、この場合はどうするかというのを細かく書き出し、条件を設定しているような状況である。(事務局)

- ・普通、リストを作成するときには、標本の裏づけがあつてということになるが、それをやりだすと大変なことになる。それこそ博物館みたいな施設がないとできない。博物館があつても難しいと思うので西宮市のやり方はそれで良いと思う。ただ、その時に特定不能種まで対応するのは大変なので、そこはもう省いてしまうのが一番良いのではないかと思う。何とかの一種というのは必要ない。名前がわかった段階で掲載すべきかと思う。(委員)

■ 検討事項

1. 生物多様性関連活動状況について(事務局説明)

- ・(新聞記事にある)甲子園浜の現状は、昔担当していた者として心苦しいところがある。それはさておき、生物多様性の将来像は行政側が決めたことだと思うが、リストにあるような活動団体が発表したり、意見を交換したりといった交流の場というものはあるのか？(委員)

→今のところはない。(事務局)

→このような団体の活動は市が下支えをする必要があると思う。連携を促進できるような場を作らなければならない。全ての団体が一同に会する場というのは大変だと思うので、ネットを使ったりしながらそういった仕組みを作っていく事が重要だと思う。一つの団体が活動するよりも、いくつかの団体が協力して物事を進めたほうが良いと思う。そういった仕組みづくりをしてもらいたい。(委員)

→兵庫県では、自然環境課が団体を集めて昨年10月にそのような場を設けていた。

西宮からも複数団体が参加されていた。来年度はぜひそういった場を作っていたら
ければ。(委員)

- ・市のホームページとこれらの団体のホームページとをリンクさせる仕組みも考えて欲しい。(委員)
- ・活動団体を市が表彰するという制度はあるのか？(委員)

→県の方では、活動団体を表彰したり、助成したりというのがあるみたいだが、市
町村レベルではあまり無いようで、西宮市でも無い。予算的にも厳しいところがある。
(事務局)

→表彰状を渡すだけでも良いと思うのだが。社会人の人が活動をして褒められる機会
というのはあまり無い。そういう意味で言うと大事なことかなと思う。(委員)

→兵庫県では認定団体ということで、毎年、応募してもらって認定しているが、お金
は出していない。活動しているグループとして認めようということがある。それら
をしばらく続けていたが、最近やっと県が伊藤園からお金をもらってきて、50万
から100万円ぐらいを細かく分けて団体に渡すというのをやっとできるよう
になってきた。(委員)

→伊藤園の話だが、伊藤園が琵琶湖の保全活動で売り上げの一部を滋賀県に寄付して
いるようである。(委員)

→アサヒビールが西宮にあった時には、ビール1本につき1円を県に寄付していたの
で、県は何千万円か貰っていたが、市にはそのお金がおりてきていない。市レベル
でも、西宮にはたくさん企業があるのだからアピールして企業からお金を出して
もらうというのも良いのでは。(委員)

→ぜひそういう情報を教えていただければ(事務局)

→お酒の会社があるので、お酒は宮水やお米、菌などと自然との絡みがあるのは確か
だが、酒屋は大企業には至っていないので現実的には厳しいところがあるのかなと
いうのが実感である。(委員)

- ・生物多様性と企業というのはなかなか結びつきにくいところがあるので、例えば、生
物多様性と防災とか、宮水の問題だとかを結び付けていって提案するのも一つの手だ
と思う。(委員)

- ・西宮自然保護協会は他の団体との関わりを持っていないのか？(委員)

→一口に言うと団体との関わりはもっていない。ただ、香櫨園浜・御前浜の浜に関
わってそこで活動されている団体と協力・協働しているというのはある。団体が
発足した時のなごりが影響しており、「うちらうち」という意識がある。徐々に
他の団体と結びつきを持っていくだろうとは思っている。(委員)

→一番大きな団体で、影響力の大きい団体だと思うので他との関わりを持って
いただければと思う。(委員)

- ・たくさんの団体があり、それぞれがそれぞれの目的で動いており、個々の課題や要

望を持っている。地域や、山・まちなどのエリアに対して今、これが問題というような事をこれらの地域の団体の方がよく知っているかもしれないし、全域を見ているところのほうが問題意識を持っているかもしれない。共有すべき事があれば発表の場や話し合うフォーラムのようなものがあれば、それぞれが共有すべきことを持ち帰って考えてもらえて話が進んでいくと思う。このような企画を市が音頭をとってやっていくべきだと思う。(委員)

→余っている予算でそのようなことをできないのか？(委員)

→なかなか最初からそういう企画は難しいと思うが、環境パネル展や環境フォーラムなど年間の行事として実施しているものに上手に絡めて実施するように考えていく。今の所は案がない状況なので委員の先生や実際に活動されている団体に意見を聞きながら考えていきたい。(事務局)

→来年度の予算はもう決まっているから来年度やろうと思ってもなかなか難しいよね？そうなるかどうかの企業さんからお金をいただいて何かをやるようなことではないとなかなか動かない。どの先生も言っているように全員が集まって話をしての情報交換が一番大事などこなので何とかできるように考えていただきたい。(委員)

→せっかく調査をして良いかたちで企画したと思うので、例えば環境パネル展では各地域の方が出ているのでそういった場にできればと思う。(委員)

→市の予算がなければいなくて、他に集める手はあると思うので、企業にお願いするなど。その時は私も一緒に行っても構わない、声を掛けていただければ。(委員)

・教育委員会はどのように動いているのか？私は今、教育委員会にいたので構造が良くわかる。小学校単位でビオトープをするなどといっているが、結局すぐつぶれる。理由は先生がいなくなるからで、構造的なもので位置づけられない限り持続性が無い。今、西宮で動いているのは小学校3年生の環境体験学習というのでそれはきっちり予算がついているので動いている。しかし、その枠から外れてしまうと体験学習・環境学習的なことは校長先生か個人の先生にしか任されていないので脆い。構造的に位置づけられればおもしろいのだが。川西市では小学校4年生に里山体験学習を市が独自で位置づけている。そうすると3年生で環境体験学習、4年生で里山体験学習、5年生で自然学校、6年生で修学旅行とずっと続いていくことで体験学習の一体化というのができる。ここで言っても仕方ないが、そのような位置づけができれば子どもたちの生物多様性への意識はかなり変わってくると思う。(委員)

→中学校の理科教育の先生とは、生きもの写真情報館の中で色々お話をさせてもらった。その中で、教育現場でも使えると言うことで、今後、市民参加型の自然調査を進める際に、市内の市立中学校・高等学校の特に理科に興味を持っている生徒に参加していただけるような土壌づくりとして、理科教育に熱心な先生をキーパーソンとして展開していければと考えている。(事務局)

- ・神戸市に言っているのが、4年生で防災と生物多様性を兼ね合わせた授業をしるということで、必ず授業で六甲山に連れて行くように提案している。これからは防災と生物多様性が重要なテーマになってくると思う。(委員)

2. 自然調査の今後の展開等について (事務局説明)

- ・リストの甲山湿原の調査を見ると、最初は1978年、83年、98年、2004年と調査をしており年代的にバラバラになっているが、自然を考える場合は何年間隔であるかというスパンが重要だと思う。今後、何年間のスパンで調査をするのかなどについて考えているのか？ (委員)
 - 前回の部会でも調査のスパンについて話があったが、自然調査は予算が限られているし、スパンを見ても長い先を見ないといけないのでなかなか絞れないところがある。逆にどのようにすれば良いのか意見をいただければ。(事務局)
 - 予算があれば何年ごとに調査をすれば良いというのを決めれば良いのだろうが、決めたところで、予算は毎年出されるわけだから難しい。来年度は調査の予算がついたのか？ (委員)
 - 来年度は予算がついた。(事務局)
 - 70年代はわりと調査が多いようであるが、それ以降徐々に縮小されているようだ。(委員)
- ・今、神戸市が六甲山の防災について見直しを行っており、時間当たり100ミリの広島型の洪水が来たらどうなるかというのを心配していたが、実際に時間当たり100ミリの雨が昨年降った。裏六甲の方だったので助かったが神戸市長がすごく気にしている。私は委員で入っており、そのような生物多様性の問題と防災をどのように組み合わせていくかというのを考えている。西宮には標高750m以上の所があるというのは、ある意味では自然が豊かということであり、逆に危険なところを持っているということでもある。そのようなところの自然環境がどういう状況で、防災上どのような植生の方向に持っていけば良いかは非常に重要な問題だと思う。だから、750m以上の地域の調査はきちんと継続して続けていただきたい。防災上、絶対に必要だと思う。生物多様性上と言われるとあまり迫力がないが防災上どうするとなると迫力が違う。(委員)
- ・750m以上の所の調査は継続して行う予定なのか？ (委員)
 - 特に予定は無い。(事務局)
 - 興味深い調査結果が出たところだが？北部の方ではまとまった調査は行われていないようだが。エリアとしてはどのあたりを考えているのか？例えば名塩とか生瀬とかなのか。(委員)
 - 名塩道路の建設をしている中で環境調査などをしていないのか？ (委員)
 - まだ確認はしていないが、調べてみる。(事務局)

- ・防災上、問題になりそうな所を先に調査するのはどうか？西宮でも降水量が多いところなどで。そのような所は植生を見ればすでに崩れているので、傾向としては掴みやすいと思う。広島をみても、人間が手をつけた所から崩れている。だから、盤滝トンネルあたりなどが危ないのではないか。だいたい、時間100ミリの降水量に対応するように設計されていない。広島の場合は時間20ミリぐらいの雨にしか耐えられないような側溝しか作っていないので崩壊した。(委員)
→今回は、北山、鷲林寺での調査を依頼したが、その方にも相談して防災上やっておいた方がよい所などを予算の範囲内でできる所に焦点をあてて調査を進めていきたいと思う。(事務局)

◎次回の開催日程について

平成26年度の最後の部会となる。

次回の部会については来年度の5月以降を予定している。

生物多様性推進部会については、西宮市環境計画推進パートナーシップ会議が定める専門部会なので、委員の任期が今年度3月末までで任期が終了となる。

以 上